

議員派遣結果報告書

平成 26 年第 2 回定例町議会において議決された議員派遣について、次のとおり実施したので、その結果を報告いたします。

平成 26 年 9 月 11 日

上富良野町議会議長 西村 昭教 様

議会広報特別委員長 村 上 和 子
記

件 名 広報技術研修及び北海道町村議会議長会が主催の議会広報研修会

1 調査及び研修の経過

議会広報特別委員会は、議会の活動をより分かりやすく町民に知らせるための広報紙発行に関する調査研究のため、平成 26 年 8 月 21 日から 22 日までの間、「雑誌編集コース」を設けている札幌放送技術専門学校において編集技術の指導を受け、北海道町村議会議長会主催の議会広報研修会に参加した。

2 調査の結果

(1) 広報技術研修

- ◎講 師 (株)タイガースピン 代表取締役 川島 亜希彦 氏
- ◎内 容 かみふらの議会だより 82・83 号の編集技術指導

ア 議会広報作成にあたっての基本事項

- ・ページ数はコストを考慮すると「8 の倍数」である 16 ページが 1 番効率良い。
- ・掲載したいことをすべて掲載するのではなく、絞ることで読みやすくなる。
- ・丸ゴシック体はメリハリがなくなるので極力使用しない。
- ・2 色印刷を検討すべき。
- ・余白を増やし、写真は紙面の 3 分の 2 を限度になるべく大きくすること。
- ・1 行 19 文字を 15 文字にし、文字数を減らす努力をすること。詳細はホームページに掲載すること。
- ・見出しは「えっ!!」と思われる大胆な見出しにすること。
- ・現状の縦組みの紙面を横組みにすると柔らかくなる。
- ・小見出しは初めの文字を大きくするとインパクトが出る。

イ まとめ

議会広報誌の役割は、住民への大切な情報提供の手段である。住民にいかに親しまれ、読んでもらえるための工夫が必要である。読み手側がどう思うか、どのようにすればよく伝わるのかなどを考えて編集することの大切さを改めて感じさ

せられた。

手にしてもらい読んでもらうために余白を多く、文字は少なく大きく、写真は大きく、見出しは読者に「えっ!!」と思われるものを基本に編集をすべきである。

(2) 議会広報研修会

◎講師 広報コンサルタント 芳野 政明 氏

◎演題 読まれ、親しまれ 議会活動が伝わる議会報の基本と編集技術

ア 議会広報の役割とあり方

- ・議会広報が自治体情報の主役になる時代であり、議会活性化と広報改革を一体で進める。
- ・知らせるだけでなく「聴く」を重要視。
- ・「伝える」から「伝わる」議会広報へ。

イ 議会広報の編集の基本姿勢

- ・住民が読むものを念頭に編集すること。
- ・デザイン、レイアウト、見出しは訴求力のある紙面にすること。
- ・迅速性を基本に。約1カ月から40日をめどに発行すること。
- ・住民を登場させるなど独自の企画が必要。
- ・ラフデザインを作成してから編集すること。
- ・掲載したいことを「あれも、これも」と欲張らないこと。
- ・短いセンテンスにすること。
- ・見出しの良し悪しが閲読を左右する。主語は小さく、述語を大きく。「ついて見出し」や「金額見出し」はやめること。

ウ まとめ

分権改革時代の議会広報の役割はますます重要となってくる。議会活性化と広報改革は同時に行うべきであり、町民に見える議会とするためにも議会だよりの充実が欠かせない。どんなにすばらしい議会活動も、住民が知らなければ評価は無きに等しいことを認識すべきであり、あくまでも、議会の活動内容が、住民に「伝わる」までが議会活動である。

一方、議会広報は「伝える」から「伝わる」編集技術が必要であり、読者の立場に立った編集と、読みたくなる議会だよりをめざすべきである。

議会広報の重要性を再認識し、少しでも住民に親しまれ読まれる広報づくりに努力したい。